

学道一如

発行
小樽双葉高校
生徒会通信
2025年5月27日
第12号

バスケットボール部 支部優勝

全道での活躍誓う

バスケットボール部は22日、23日の高体連支部大会で小樽桜陽に58-50、合同チーム（小樽水産・小樽明峰・倶知安）に78-42、岩内に67-51で勝利し、優勝した。主将の宮崎さんが怪我で欠場する中、全道出場をかけて一丸となり善戦した。

反省会ではリバウンドやパスの展開に課題があることを確認した。1対1のディフェンス

では守り切れたと宮崎さん。6月19日からの全道大会（札幌）での活躍を誓う。



主将の宮崎由唯さん（前列中央）が出場できない中、善戦した部員たち。今大会のスタメンは次の通り。

石嶋あかり（3-4）西尾心美（3-4）奈良衣麻里（2-4）
大竹聖奈（2-2）岩城来優（2-3）

しむしゅとう

占守島の戦い

領土と自衛権を考える

千島列島最北端の占守島

皆さんは北方領土問題については知っていると思います。しかし、千島列島をご存知の方は少ないのではないのでしょうか。千島列島というのは一八七五年（明治8年）樺太・千島交換条

約によって日本領となった島で、北方領土と同じく一九四五年（昭和20年）旧ソ連（現ロシア）が日ソ中立条約を一方的に破棄し不当な侵攻によって占領されました。

ここまでは歴史の教科書にも出てきます。しかし、今の北海道が日本領であるのは、この千島列島の最北端に位置する占守島での戦いがあつたからこそだと考えられます。

不当な侵攻に反撃した日本軍

ソ連は一九四五年8月8日、日本に対して侵攻を開始。日本は14日にポツダム宣言受諾を決め、15日終戦の詔書が出され、16日大本営から18日までに戦闘を停止するように命令を出しました。しかしソ連は18日に占守島に上陸し、武装解除を行っていた日本軍を攻撃しました。その報告を受けた北方の防衛を担当する第五方面軍司令官樋口季一郎中将は、かねてよりソ連軍の北海道本島への侵攻を懸

念していたため、現地の日本軍に対し「断固反撃に転じ、ソ連軍を撃滅すべし」と命じました。現地の日本軍は反撃を行い、ソ連軍を足止めしました。当初は日本軍優勢でしたが、21日、軍の命令によりソ連に降伏しました。その後、ソ連軍は千島全島を占領しましたが、占守島での戦闘で大きな打撃を受けたため、占領計画は大幅に遅れました。9月2日に日本は降伏文書に署名し、ソ連軍は北海道に上陸できませんでした。しかし、北方領土四島は占領されたまま今日に至っています。

自衛権はどこまで許されるか

この歴史を知ることによって様々なことを考えさせられます。敗戦したとはいえ、国際法は守られなければならない。このような不当な侵攻に対して自衛権を行使すべきではないか、と樋口中将は考え、命令を下したのだと考えられます。武装解除までのぎりぎりの判断と戦闘をどう受けとめたらいのかは議論のあるところでしょう。戦闘は多くの死傷者を出し、捕虜となりシベリア抑留され、命を落としたりた兵士も少なくありませんでした。しかし、その歴史の延長にある私たちは今、北海道で平和に暮らすことができている。世界に目を向けると、ウクライナやガザへの侵攻により、多くの犠牲者が出ています。不当な攻撃に自衛権を行使すべきか否か、他の解決策はないのか。戦後80年経つ今、あらためて歴史から学んでみたいと思います。

（落合優翔）

戦後80年 未来への伝言



双葉歴史探偵事務所

□5□